

創価学会出現以前の宗門の「秘史」(五)

「学会ができてから、謗法厳戒になった」と話していた日如

●日頭だけではなく、日如も創価学会の信心により、「謗法厳戒」になったと認めていた

前号で、日頭が青年得度七期生との目通りで

「お前たちも知っていると
思うが、本山の周りは謗法
だらけだ。しかし、学会の
おかげで、だいぶましにな
った」

と話していたことを紹介し
たが、実は、日如も同じよ
うなことを話していた。

昭和六十三年、宗務院で
行われていた御書系年委員
会での話だ。日如が永栄義
親に次のように言つて笑つ
ていた。

「謗法厳戒なんて言つたつ
て、昔は関係なかった。
子供のころはみんなで浅
間祭りにいっていたよな、
リキちゃん（永栄のこと）。
創価学会ができてから、
謗法厳戒になったんだ」

すなわち、創価学会が出

現する以前の宗門では、「謗
法厳戒」という宗風はなか
ったということである。

●正しい信心を教えてもら
つていなかった旧信徒たち

旧信徒の信心の実態とみ
ると、宗門が信徒に正しい
信心を教えていなかったこ
とがわかる。

例えば、改革同盟の小倉
住職は次のように証言して
いる。

「香川の立正寺に在勤して
いた時のことです。旧信徒
が、仏壇を新しくしたから
来てほしいというのでうか
がったら、なんと身延の本
尊がかけてあった。

「前の御本尊はどうしま
したか」と聞くと『真つ黒
なので仏壇屋でお焚きあげ
してもらおう』と言うので
見ると五十一世日英上人
の御本尊でした。びっくり
して、御本尊の大切さを話
し、やっと表装してもら

ことになりました。」

他にも、ある信徒の家を
訪問すると、その家の仏壇
には、立正校成会の本尊が
掛かっていた。理由を聞く
と、

「宗門の御本尊は、金を出
せばくれるが、校成会の本
尊は十人以上の人を紹介し
ないと貰えない。だからこ
っちのが大切なんだ」と
言っていたという。

また、小倉住職は、仙台
の仏眼寺にも在勤し、旧信
徒の実態を見て驚いたとい
う。

・御本尊の後ろに金紙を張
るとお金持ちになれると信
じていた信徒。
・御本尊に向かって「般若
心経」を唱えていた信徒。
・御本尊を床の間に掛け軸
のようにかけていた信徒。
・身延、池上、大石寺の3
つの本尊を安置していた信
徒。

旧信徒たちのこのような

実態は、一体、誰の責任で
あるのか？ すべて、僧侶
の責任で有ることは明らか
である。

●日寛上人の御本尊を粗末
に扱っていたのは宗門

仏眼寺に行くと、誰もが
驚くことがある。それは、
日寛上人の御本尊が石に彫
られて、各所に置いてある
ことだ。

一見、墓石のような石に、
御本尊が彫られていて、雨
風にさらされている。

また、仏眼寺の近くにあ
る鬼子母神堂には日寛上人
の御本尊が安置されていた
という。

このように、宗門では日
寛上人の御本尊を粗末に扱
っていたのだ。

「御本尊様を命懸けで守
る」という信心を実践し、
信徒に教えたのは、創価学
会の歴代会長だけなのであ
る。(続く)